

4章 景観形成基準でよく利用される用語

景観形成基準の内容を住民や事業者等に分かりやすく伝えることは重要です。

景観形成基準でよく使用される景観に関する用語の解説例を示しますので、検討する際の参考にしてください。

ア行

●アースカラー

大地の色、空の色、海の色、砂の色、草木の色などの、大自然に由来する色をさしているナチュラルカラーのこと。明るさ、おおらかさが特徴で自然景観と調和しやすい。

●エントランス

建築物などの入口、玄関まわりのこと。

●オープンスペース

建築物などによって覆われていない土地の総称で、主に敷地内の空地を指す。

●屋外広告物

常時または一定の期間継続して屋外で公衆に表示されるもので、看板、立看板、はり紙、はり札並びに広告塔、広告板、建築物や工作物等に表示されたものなどを指す。

●屋外設備

給水塔、空調室外機、電気メーター、給水管、電気配管(線)、ダクト等の建築物の屋外に設置される設備。

カ行

●切妻屋根

屋根形式の一種で、棟から両側に勾配屋根があり、側面側の妻側は壁になっている屋根形状。

●形態意匠

建築物や工作物などの外観全体の特徴をあらわす形状、模様などが一体となったものや、外観の一部を構成する意匠（デザイン）を指す。

●建築物、工作物

一般に工作物は、土地に定着する人工物を指し、建築基準法で定義される建築物とは、土地に定着する工作物のうち、屋根および柱もしくは壁を有するものをいう。

サ行

●視点場

視点が存在する場所のこと。視点は景観を見る人間自体であり、視点場は視点である人間が位置する場所をいう。

●修景

風景や景観を人為に、より美的に造ること。元来は造園上の用語で庭園美化などを意味するが、近年は建築物等の形態・意匠・色彩を周囲の街並みに調和させることやストリート・ファニチャーの配置など、景観整備一般を指すことが多い。

●スカイライン

建築物や山などの連なりによる輪郭線のこと。

●セットバック

指定された壁面線に沿って建築物を建てたり、細街路を拡幅して空地や道路幅員を確保するために、現在の位置よりも後退して建築物等を設置すること。

タ行

●眺望点・眺望の視点場

特定の対象や街並みを高所等から見渡すことができる地点で、不特定多数の人の集まる可能性のある公共的な場所を指す。

ナ行

●軒（のき）

屋根の外壁から外側に出ている部分。

ハ行

●庇（ひさし）

出入口や窓の上部に設け、日差しや雨を防ぐ片流れの小さな屋根状のもの。

●ヒューマンスケール

建築物や都市の空間において、人間らしさを感じられ、人間の活動にふさわしい空間のスケール、または尺度のこと。

●ファサード

建築物の正面あるいは外観をいう。道路側から見たときの、建物のもっとも見せ場となる「顔」の部分で、建築デザインの面では重要な要素の一つ。

●壁面の分節

単調で大きな壁面は周囲への圧迫感があるため、壁面の意匠や素材を替えたり、棟を分けるなど工夫すること。

マ行

●マンセル表色系

色彩の表示を行うための記号体系のこと。マンセル表色系では、色の三属性（色相（Hue）・明度（Value）・彩度（Chroma））によって、ひとつの色を表す。

ヤ行

●屋根勾配

屋根を仕上げるときの角度のことで、屋根の傾斜の度合いを示す。屋根勾配を表す時には 30°とか 60°とかの『角度』は使わずに、4 寸勾配 (4/10) や 6 寸勾配 (6/10) というように、底辺を 10 としたときの高さを表す特殊な角度を使用する。

ラ行

●ランドマーク

地域の目印となる、または地域を象徴する景観構成要素のこと。

●ルーバー

細長い板をたくさん取り付けた格子のこと。

●陸（ろく）屋根

屋根勾配を設けない平らな形状の屋根。鉄筋コンクリート造や鉄骨造などの屋上に使われる。